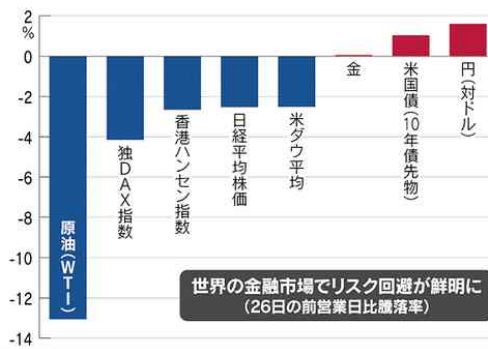


# オミクロン 新変異型で世界株安

## NY株900ドル安 原油1割強下落



新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」の脅威が世界の金融市場を揺さぶっている。26日はリスク資産からマネーが流出し、日本欧など世界の株式相場が軒並み大幅下落。米原油先物価格は1割強値下がりした。渡米制限の動きが世界的に広がっており、投資家は経済正常化シナリオの修正を迫られている。(一面参照)

「パンデミック(世界)終値は前日比90.5%安の大流行」終結の判断を、2021年に入ってから早まったのではないかと、大の下げ幅で、一時は100%の疑問に投資家が直面している。(米ゴールドマン・サックス)がオミクロン型を最も警戒し、株相場の今年最大の下落率となった。

ベルギー「懸念される通貨」などリスク資産が暴落した26日、投資家心理は軒並み悪化されるなか、安金資産とされる米国債には買いが集まった。長期「買への逃避」に動いた。金利の指標となる米10年米ダウ工業株30種平均の国債利回りは26日、1.48%台まで低下(債券価格は上昇)。下げ幅はコロナの感染が拡大した20年3月以来の大きさだ。世界の株式相場は21年に入って上昇基調が続いてきた。ワクチン接種の加速で経済活動が再開

## 旅行や消費停滞懸念 経済正常化に影

市場参加者の見方

**大和証券 壁谷洋和氏**  
(22年3月末までの想定レンジ)  
**2万7000~3万3000円**  
変異型のリスク浮上も原油安でインフレ懸念は後退。第1波のような株安にはならない

**ニッセイ基礎研究所 井出真吾氏**  
**2万5000~3万1000円**  
感染状況より経済活動がどこまで止まるかが株相を左右。円高進行で週明けに一時2万8000円を割り込む可能性も

**みずほ銀行 唐鎌大輔氏**  
**1ドル=113~117円**  
26日の円高で市場参加者の持ち高調整が進んだ。日本の経済回復が遅れている以上は円安続く

**三菱UFJモルガン・スタンレー証券 植野大伴氏**  
**1ドル=110~118円**  
変異型でワクチンが台なしになれば、米国のテーパリングが遅れるとの見方から円高になりやすい

企業業績の改善期待も強まり、投資家はリスク資産に資金を振り回した。ダウは11月には3万6000円台まで上昇。米パンデミック・オペ・アメリカによる資金流入額は年初から8930億(約101兆円)に達し、年間で過去最多のペースだ。

経済再開に伴って上昇していたのが旅行やレジャー関連株だ。ホテルチェーン大手のマリオット・インターナショナルは20年未比で30%上昇し、11月に年初来高値をつけた。カシノホテル運営のMGMリゾーツ・インターナショナルも11月に高値をつけた。株相はコロナ前水準を上回っていた。

新たな変異型の台頭で、これまでの楽観とも異なるシナリオの修正が迫られた格好だ。期待先行で株相が持ち直しているだけに、旅行やレジャー、南アフリカからの渡

航制限の動きが米欧や欧州アジアなどに広がる。各国の移動制限が強化し、消費を押し下げる懸念もある。景気動向に敏感な米アメリカン・エクスプレス(株)は下落率が8%を超えた。一方で「ハイテク株は資金が流入しやすくなる」(第一生命経済研究所の藤代宏・主任エコノミスト)との見方がある。

金融政策に影響を及ぼす可能性もある。みずほ銀行の唐鎌大輔氏「ファーマー・エコノミスト」は「世界を再び移動制限が広がれば、米国の筆頭に金融政策の正常化プロセスが崩れかねない」とみる。市場が織り込む22年の米利上げ見通しは24日時点の「3回以上」から26日には「1~2回」へと変化した。

英国も同様だ。米アルムパーク通信によると、中央銀行のチーフエコノミスト、ヒュー・ヒル氏は26日の講演で「新変異型の影響に言及し、もし金融市場で混乱が生じたら、パンデミックで街が閉鎖された場合、我々の見方変わるような大きな株安にはならない」と述べた。

「そもそも、これまで市場の懸念材料だった米国の先行きを、3月からの高水準を維持した。当面は不安定な相場展開が続く」との見方は多い。(ニューヨーク)宮本岳則(ロンドン)藤崎健太(佐伯遼)